

千葉空襲の記憶 紙芝居で

伝える会 12日、来月7日に読み聞かせ

900人が犠牲

1945年夏、米軍の攻撃で約900人が犠牲になったとされる千葉空襲の経験を後世に伝えようと、「ちは・戦争体験を伝える会」のメンバーが、紙芝居の上演を行っている。今月12日と、空襲からちょうど66年となる来月7日にも千葉市内の催しで読み聞かせを行う。



「生きたまま焼かれた人もいる。こんなことが起きない世の中にしてほしい」と、本に収めた紙芝居の絵を見せる市川さん

同会は2005年7月に設立。空襲の体験者が高齢化してきたことから、その記憶をとどめるため、体験を聞き取り、イメージを伝えやすい紙芝居の制作を始めた。昨年10月には、上演している紙芝居や体験者の手記を収めた本「伝えたいこと―記憶を刻み二度と悲しい戦争を繰り返さないために―(和東書房刊)」を出版した。

「伝えたいこと」に収められた紙芝居は10作品。真っ赤に染まった空を編隊を組んで飛ぶ米軍機や、狭い防空壕に身を寄せ合って避難する人々、家族を失う悲しみなど、空襲の記憶を生々しく伝えている。

出版を機に同会は今年2月、市内の小中学校で紙芝居

を上演。このほか当時の子どもたちの遊びや、空襲の様子など、児童らは体験者の話に熱心に聞き入ったという。同会はその後も市内の小中学校を訪ね、学校での紙芝居上演に協力を求めているほか、図書室に「伝えたいこと」を置いてもらっている。

「遠い話と思っていた戦争が身近にあったと知り、衝撃だった」。同会代表で、千葉市出身の市川まり子さん(59)も数年前まで千葉空襲のことを知らなかったという。「どうしたらこんな悲惨なことをなくせるのか。子どもたちに歴史を知ってもらい、自分たちで考えられるようになってほしい」と活動への思いを語る。

来月7日は、1945年7月7日に空襲があつてから66年。同会は別の市民グループとの共催で催しを行い、紙芝居を披露するほか、空襲体験者5人も体験を語る。午後2時〜4時半、同市中央区の市文化センター19階で、参加費無料。

また今月12日も、同市中央区の大田切公園で紙芝居を上演する。問い合わせは伝える会(043・2667・9533)へ。

◆7・7千葉市空襲66周年／戦争を繰り返さないための集い
2011 7月7日14〜16時半、千葉市文化センター9階。千葉・東京の空襲被災者による体験談、紙芝居など。参加無料(資料代300円)。千葉市空襲と戦争を語る会事務局☎080(5305)3739

見る・聞く・話す・参加する

読売新聞



両会は死者名簿の作成とともに、空襲の慰霊碑の建立も計画している。空襲のあった7日午後2時から、千葉市文化センター(同市中央区)で、「戦争を繰り返さないための集い2011」(無料)を開く。空襲体験者5人の講演や経歴談をもとにつくった